NPO法人加治川ネット21情報紙

水辺のひろば

No.12
2010年 10月 1日発行

米倉地区の街道沿いの小川から集落を望む

川のある風景 ～会津街道～

昔、参勤交代のとき、新発田の殿様は五十公野御茶屋で旅支度をし、会津街道を通って江戸へ向かったそうです。

そんな情景を思い浮かべながら、旧会津街道を天の原、丑首、米倉と歩いてみます。新しい道ではなく、あえて昔の道を選びながら歩くと、どこの集落にも必ず川があります。水辺には緑があり爽やかです。

歩いてみて分かることですが、道沿いを流れる水の音は、足を軽やかにするとともに、心もリズミカルにしてくれます。

水が豊富ということは、暮らしの豊かさでもあります。水辺があってこそ、そこに集落が形成されます。そして集落は、川を中心としてひとつの景観を創っています。

そういう点では、新興住宅街とは大違いです。新興住宅は区画整理をしてつくるわけですから、ある一面では景観的にまとまっています。しかし、決定的に異なるのは、川がないということです。

川は、暮らしにうるおいとやすらぎを与えてくれます。川のある風景は、歩いてみてそのよさが分かってきます。そして、効率性を求めない川ほど、景観的にもやさしく美しく感じられます。

会津街道、丑首地区を行く

新発田の自然 「新発田南部線」

新発田の街の中から赤谷方面へ車を走らせます。中々山の集落を過ぎたところに林道の看板があります。国道290号線から少し入ったところにある剣竜峡へ抜ける「新発田南部線」です。この林道はちょっと前に開通したものだそうです。

この看板から入り、林道をしばらく登っていくと、眼下に棚田が広がります。ここで車を止めて、しばし、棚田の風景を観賞。思ったよりも田んぼが広がっていて、美しく感じます。

その先を進むと、「門限が5時」と書かれた林道入口ゲート。ここを通りすぎると、狭く、右や左にうねった道が続きます。剣竜峡のゲートまで、約11kmの道のりです。誰も通らない、猿にも合わない。途中でトラブルがあっても、だれにも会わないし、どうしようもない。「それにしても、何のためにつくった道なのか」、ふと、そんな風に思えてしまう道です。時期になれば、山菜や紅葉でこの林道を通る人もいるかもしれませんが…。

沿道に咲いている萩の花だけが、妙に記憶に残る不思議な道です。

山間にひっそりと棚田が広がっている

寄稿 殿様街道てくてく旅⑥

赤井集落は会津若松から最初の宿として栄えたところだそうで、井戸の水が赤かったことからこの地名になったとか。赤井集落も書きたいことはたくさんあるが、レポートは先を急ぐ。

再び県道の路肩を一列でひたすら歩く。交通量が多い道路を歩くのはつらい。30分ほど歩くと、共和集落。更に下馬渡、上馬渡を通り西田面に至る。この辺が旧湊町の中心らしい。

西田面を抜けて再び国道に合流し南下する。一原越えると右に背あぶり峠に至る県道がある。昔、秀吉が会津攻めの時に通った道として書物に出てくる。さらに進むとやがて宿場町として栄えた原集落に至る。今もその面影を色濃く残している。

黒森峠は、今はトンネルが開通しあっという間に通り過ぎてしまうが、その昔は九十九折の難所だったそうだ。この峠が会津若松市と郡山市の境界になっている。旧道はそれぞれの入り口に車止めがあり、自動車は通行できないようになっている。この峠の会津若松側に一里塚が残っているということだったが、疲れとおしゃべりに夢中でうっかりして確認できなかった。歩くことで日常とは違った風景に出会えるのがうれしい。

(次号に続く)

宝物みーつけた ヒト型土器

新発田市が城下町として発展してきたことは、新発田城を見ても推測できますが、それ以前からも人々は生活しており、過去の生活の場であった遺跡も、市内の各所で見つかっています。その数は、現在確認されているだけでも680箇所にものぼります。

中でも、昭和55年から56年にかけての菅谷地区の圃場整備で発掘調査が行われた村尻遺跡からは、人の形をした土器が見つかっています。これは約2000年前の弥生時代中期のもので、一度埋葬した骨を再度集めて入れた再葬用の器と考えられています。

高さ45・3cmでS字状の左右対称の文様があり、頭部の形が略されています。このような胴体のみのヒト型土器は全国的にも珍しいもので、新潟県の有形指定文化財に指定されています。

このヒト型土器は、新発田市加治展示室（旧新金塚小学校跡）に所蔵されていて、新発田市の教育委員会（TEL／22-3101（代））に予約すれば、無料で見学することができます。

加治展示室にあるヒト型土器

《編集後記》

▼今年の夏は暑かったですね。猛暑日が何日も続き、「観測史上初」の活字が、新聞を飛び交いました。地域のボランティア活動にかかわっている当会会員は、2学期を迎える前に、小学校から農作業用の遮光ネットを窓に張る作業を頼まれたそうです。カーテンを閉めれば風が入らないため、風を通し、日差しを遮るものということで、遮光ネットになったようです。そういえば、近年はめっきり姿を消した「すだれ」。今年は活躍したのでしょうか。

▼先日テレビで当会の特別顧問のCW.ニコルさんが、養蜂場でのハチミツの採り方について説明をしていました。黒い衣服は避けること、黒い服は蜜を奪う「熊」と認識し、蜂にとっては非常事態。次にゆっくりと動く。あせって早く動くと蜂は一斉に攻撃します。そしてハチミツを採った後には養蜂箱に砂糖水を掛ける。この最後のひと手間を惜しまないこと。生き物から物を頂くことへの「ありがとう」の心です。

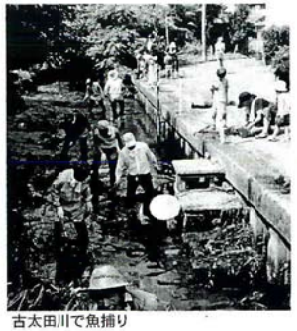
NPO法人加治川ネット21の紹介

設　立	1995年11月。2003年5月法人化
活動目的	21世紀を生きる子供たちによい環境（自然、伝統、文化）を残し、伝えたい。
主な活動	水と親しむ水辺の大楽校、生き物調査、小学校環境学習支援、川辺や町並み散策、手前みそ作り、シンポジウム開催など
受賞歴	環境大臣表彰、新潟県環境賞、「日本の水をきれいにする会」会長表彰ほか

発行：NPO法人 加治川ネット21　事務局所在地：新発田市小戸886-1　電話：(0254)31-4111　ホームページアドレス：http://www.inet-shibata.or.jp/~kjn21/

活動あれこれ

地域支援 生き物観察会も定着


古太田川で魚捕り

佐々木地区・両新田
お父さんの魚捕りに子どもたちは大声援

農地・水・環境保全向上対策で佐々木地区「古太田川環境保全協議会」が取り組んでいる活動の一つ、生き物観察会が8月8日開催され、当会が講師を務めました。

当日は炎天下の中、親子14組が参加しました。生き物採取の前に、まずは集落の方々が川に入り、伸びた川藻を刈取ります。その後をお父さんたちが大型網で追いながらの魚の捕獲です。子どもやお母さんたちは「ザリガニ捕って！」「あ、魚がいるよ」とお父さんたちに声援です。子どもたちの黄色い声に隣近所の方々も出てきて、橋の上からみんなと一緒に声援を送っていました。

予定の区間の捕獲を終えた後、各自生き物の入ったバケツを持ち寄り、それぞれ生き物の種類別に分けました。圧巻だったのは、60㎝クラスの鯉が一匹。ほかには大量のアメリカザリガニをはじめ、オイカワ、カマツカ、ギンブナ、コイ、ニゴイ、ヤリタナゴなど、11種の魚類を捕らえることができ、それらの魚類について講師が説明しました。

真剣なまなざしで聞いていた子どもたちは古太田川の多様性を理解した様子でした。

加治川地区・向中条
集落用水路の水質観察 ウシガエルにびっくり

夏休み最後となる日曜日、8月29日に加治川に近い向中条地区で「農地・水・向中条地域保全会」の生き物観察会が開催されました。この地区の観察会で当会が講師を務めるのは今年で4年目になります。当日は13名ほどの親子連れの参加がありました。

継続観察ということで、最初に去年と同様の民家に近い集落内用水路で、水質の現状を確認してもらいました。水路が家に近いところなので、COD値が高めで㏈は65で若干の汚れがありました。

この結果を踏まえて、次は、どんな生き物がいるかの調査です。かなりの泥に混じり、メダカや太目のドジョウ、タイリクバラタナゴなどを発見し捕獲。また、トノサマガエル、ヤゴ、ガムシ、ミズカマキリやザリガニなどのおなじみの生き物も捕まえることが出来ました。ウシガエルを捕獲してびっくりの子どもと大人たち、捕らえたウシガエルを早速わしづかみする子どもの誇らしげな顔が印象的でした。

集落の家の近くにもこのような生き物がたくさん棲んでいる場所があること、水質と生物の関係など、今年もまた、体験を通し「地域の環境」を学習できたのではないでしょうか。

ほーら、見て見てこのカエル

学習支援 五十公野小学校でイバラトミヨの講義

加治川ネットの大切な事業の一つが、小学校などでの総合学習支援。4月からすでに延べ20回近くも実施しています。その中から、6月末に行われた新発田市立五十公野小学校4年生の総合学習を紹介します。

五十公野小学校は、新潟県絶滅危惧種イバラトミヨの聖域、久保地区と隣り合わせの学区です。しかし、いままでイバラトミヨの事を十分に学習するということがありませんでした。そこで今回はイバラトミヨと人々が共存するための基礎学習です。

最初に、久保地区にいる生き物たち（イバラトミヨ、ツチガエル、ホトケドジョウなど）を紹介した後、イバラトミヨの産卵行動や、卵を育てるに不可欠な水草、そして湧水の大切さなどについて説明しました。

児童たちは、実際にイバラトミヨがどんなところに棲んでいるのか？強い興味を持ったようでした。

川で親しむ 水辺の大楽校で今年もカッパ出没

8月1日、ネット主催の恒例事業「水辺の大楽校」が、今年も加治川天然プールで開催されました。今年の参加は新発田市内外からの親子連れなど40人。途中小雨もパラつく曇天ではありましたが、暑い日差しに悩まされることもなく、結果オーライ。

最初の活動は、新潟県新発田地域振興局環境センターの方の指導による加治川の水質調査。その後は早速「カッパ体験」です。

ライフジャケットを着用し、当会スタッフの点検を受けた人から水辺へ移動です。全員で自己紹介ゲームをしながら体を水の冷たさに慣らしていきます。みんなの顔を覚えたところで少し深いところへ移動し、2人一組で「川流れ」を開始しました。

浅瀬と違い、深い本流の水は思いのほか冷たく、子どもたちはその冷たさに驚きながらも、カッパ体験に大きな歓声を上げていました。

頃合いを見計らって子どもたちを水から上げ、今度は紙コップによる水中メガネの制作。紙コップとラップを使用した単純な構造ではありますが、ラップがレンズの役割を果たし、水の中がよく見えると、子どもたちにも好評でした。

午後は、竹を使った昔ながらの水鉄砲つくりです。今回の参加者は腕が良いらしく、どれもみんなよく水が飛び、的当てゲームの的もすぐにボロボロになってしまいました。

盛りだくさんのメニューでしたが、参加した皆さんには自然の中で遊ぶ楽しさを満喫してもらえたものと思います。

水に浮くのは楽しいね

11月の事業 小学生による環境学習発表会と環境学習パネル展

当会が総合学習で関わっている小学校の児童が、その成果を発表します。

環境学習発表会

【とき】平成22年11月14日(日)
午後1時30分～3時30分
【ところ】新発田市生涯学習センター講堂
【発表校】新発田市赤谷、荒橋、二葉、米倉、五十公野、加治川、聖籠町亀代の各小学校

同時開催／小学校環境学習パネル展示

小学校環境学習パネル展

【とき】平成22年11月15日(月)～11月21日(日)
午前10時～午後10時
【ところ】イオン・ジャスコ新発田店
1階中央ロビー
【内容】小学生が作成した環境学習のパネル展示

こんな場所発見 休み石

新発田高校近くの休み石

かつて、新発田の町に入る諸街道の路端には、四角い石が3個連なって配置されていました。これは「休み石」と呼ばれるものです。

この休み石は、大正二年六月に、旧新発田上鉄砲町（現在の諏訪町3丁目あたり）に住んでいた中村平吉氏が、当時の新潟県知事に設置を願い出て許可されたものです。

休み石は、新発田の町へ薪炭や生産物を背負って売りに来る近在の人々が、荷を背負ったままこの石に荷を上げて、一息つくために利用されていました。また、小学生も遠足の帰りなどには先を争って腰をかけたものだといわれています。

この休み石も道路の拡張に伴い撤去されて、今ではお城の表門前と新発田高校脇の歩道にわずかに残っているのみです。

出典：新発田郷土誌第9号より

くらしの方言 その6
「なげたらアカン」

標準語と思っていた言葉が、実は方言だったということがあります。都会に進学したA男は、友達になったB君に引越しを手伝ってもらいました。

B君　「荷物の空き箱どうしよう。」
A男　「全部**投げる**からそこにまとめておいて」
B君　「**投げる**って！どこに投げるんだよー、この部屋は2階だから投げたら危ないだろう、アカンよ。」
A男　「えっ！別に放り投げたりはしないんだけど・・・」

※ゴミを捨てることを「**投げる**」と言ってしまい、その意味が相手に伝わらなかった経験をした方も多いのではないでしょうか。

捨てることを「**投げる**」というのは東北、北海道や新潟の一部で使われている方言なのです。

環境豆知識
いつまでが新米？

秋もたけなわ、今年も新米のおいしい季節となってきました。

さて、毎年収穫されるお米は、いつまで新米と呼べるのでしょうか？

食品の表示制度を定めているJAS法によると、米の表示に関しては産地、品種、産年、使用割合、精米年月日、販売者などが義務付けられています。

新米の表示に関しては、お米が収穫された年の年末、すなわち12月31日までに精白、包装されたお米を「新米」と表示することが出来ます。ですから米の取れた翌年初めの頃までが、「新米」と表示して流通していることが多いようです。

一般に新米は水分を多く含んでいるので、水加減を少なめにして炊くとよく炊けます。前年の古米と比べると光沢があり、柔らかく粘りがありますので、上手に炊いて美味しく頂きましょう。

参考出典　食育通信社「食育大事典」より

NPO法人 加治川ネット21団体会員紹介（順不同）
㈱日園、曽根建㈱、㈲みずほ園芸、片山食品㈱、㈱アートグラフィック新潟、大進電業㈱、大豊電気㈱、㈲ひかり電工、ミトモ電設㈱、ベック㈲、北越緑化㈱、新発田ガス㈱、葉水酒造㈱、NPO法人 赤とんぼ、㈱馬場工務店、㈱静岡グリーンサービス、聖光園㈲、エヌシーイー㈱、㈱花安 新発田斎場、新潟グリーンテック㈱、㈲高橋基礎、若月建設㈱、昭栄印刷㈱、川東土地改良区、豊浦郷土地改良区